

2 共助

「地域の皆さんで助け合うこと」

阪神淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の 98%が自助と共助で助けられました。

(1) 近所の支えあい・助け合い

地震による大きな災害が発生した直後は、行政による支援が間に合わないことが過去の災害の教訓からも明らかになっています。災害発生時には、まず自分や家族の安全確認をし、次に隣近所の安否確認や救出活動など、隣近所で支えあい、助け合いましょう。

救助作業には、シャベルやロープ、バールなどが役に立ちます。家庭の大工道具や、災害時避難所（小中学校、高校など）や公園などの防災倉庫に配備されている救助用資機材も活用できます。

けが人が出た場合は応急手当を行い、重傷者は病院に搬送しましょう。

余震に気をつけながら、各家庭にある食料や水を持ちより、みんなで分け合いましょう。

① 自主防災組織・地区防災計画

さまざまな災害による被害を防止・軽減するためには、地域コミュニティの活性化によって区民のみなさんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災意識を持ち、互いに協力し助け合うことが大切です。

阿倍野区では、いざというときに地域住民が連携して助け合うことができるよう、平常時より各地域活動協議会や地域振興会などが自主防災組織としての役割を担い、まちなか防災訓練や様々な防災普及啓発活動を防災リーダーの方々を中心となって実施しています。

また、いざというときの災害応急対策や普段からの災害予防活動の実効性をより高めるために、各地域の特性などを反映させた「〇〇地区防災計画」を各地域単位で作成し、具体的な行動の手順などについて定めておきましょう。

■ 悪質犯罪に遭わないために！



避難所に避難している間に家が荒らされるなどの被害が、過去の災害でも報告されています。避難所に避難する場合は、しっかりと戸締りをするはもちろん、避難所運営委員会で見回りの役割を分担したり、自警団を結成したりするなど、自分たちの家を地域で守ることも大切です。

② 避難行動要支援者対策

共助の一環として、高齢者や障がい者など、災害時の避難に支援が必要な方を地域住民の助け合いによって救助することが重要です。そのために、避難行動要支援者への支援全般について地域や隣近所で検討しておきましょう。

また、いざというときに避難行動要支援者への支援がスムーズに行われるよう、各地域単位で「避難行動要支援者避難支援プラン（個別計画）」を策定して避難行動要支援者の安否確認、救出、救護、避難誘導などの具体的な支援内容について定めておきましょう。



(2) 地域の防災活動へ参加しよう

それぞれの地域において、各地域の自主防災組織が中心となって安全安心なまちづくりをめざして、まちなか防災訓練や避難所開設運営訓練、防災研修会などいろいろな防災活動が行われています。ぜひご参加いただき、日ごろの備えに役立ててください。

① まちなか防災訓練

地域のみなさまが普段生活しているまちの中で、巨大地震を想定した、消火、救出、救護、応急処置などの実践・体験型の訓練を実施しています。地域の防災力を高めるためには、幅広い年代の多くの住民の皆様の参加が必要です。まちなか防災訓練は、阿倍野区ホームページのほか、回覧板や掲示板、ツイッター、青色防犯パトロールカー等でお知らせいたしますので、隣近所誘いあって訓練に参加しましょう。



【バケツリレーによる初期消火訓練】



【自動販売機の下敷きになった被災者救出訓練】

②避難所開設運営訓練

大規模災害の発生後に最も重要とされる避難所の設置や運営、関係機関との連携について、実際に避難所となる学校を使用して、地域住民が主体となって地域の実情に合った実践的な訓練を行っています。



【避難所の危険場所等の調査】



【避難所開設運営訓練】

③防災研修会・講演会

各地域では、災害時の災害対策本部や避難所運営など、防災活動の中心となる役員の方が防災ワークショップを開催したり、地域振興会やPTA、各種団体などが防災研修会や防災講演会を行っています。



【防災フォーラム】



【防災ワークショップ】